

Vol.56 No.1

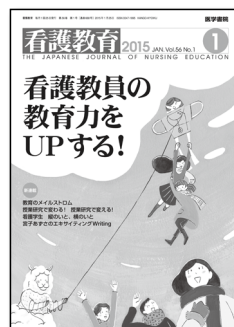
2015年1月
特集

看護教員の教育力をUPする！

中央教育審議会答申において大学教員の教育力向上が謳われて以来、大学におけるファカルティ・ディベロップメント(FD)を巡る動きが活発になってきました。当然看護系大学も改めて「教育」に力を注ぎ始めています。ただ、それ自体は歓迎すべきことですが、内容に関して言えば、まだまだ手さぐり状態が続いていると見えます。翻って、看護専門学校においては、専任教員養成講習会で「教育」を学ぶ機会はありませんが、残念ながらその内容は、現在進行形の「教育」に追いついていないのが現状です。

そこで弊誌では、読者であるすべての看護教員の教育力をUPさせることを目標に掲げて編集計画を立てようと考えました。本特集では、教育力UPのためにこれまでやられてきたことを振り返り、それをふまえて今後どのような工夫や試みが必要なのかを提議したいと思います。看護師はそもそも教育力を期待される集団のはず。看護教員であればなおさらです。ぜひとも前例主義から脱皮して、新たな試みに向け一歩を踏み出していきたいと思います。

- 【対談】看護教員が教育力UPのためにできること……………近藤麻理／佐藤浩章
- 看護教員が教育力UPのためにやってきたこと、やっていくこと……………村中陽子
- これからの専任教員養成講習会で教育力をUPするための工夫……………杉原多可子
- 「教員」になるために必要な教育力と教員力……………新保幸洋
- 改めて学ぶアクティブ・ラーニング……………三浦真琴



Vol.55 No.12

2014年12月
特集

理想的な「入学前学習」を求めて

「入学前学習」は、本来しなくても済むことが理想的でしょう。学習のための準備はカリキュラムにもないですし、本来の業務から外れているかもしれません。在学生の教育に専念したい、というのが忙しい先生方の本音かと思います。しかし、現実問題として、専門学校、大学問わず、入学生が多様化などの影響で、勉強するための学力が足りていない、モチベーションが低い、机に座る習慣がない、という声があがっています。

そのような状況を受け、「入学前学習」の検討が進んでいます。ただもちろん入学前に何もかもを教えることはできませんし、取捨選択や手間が必要です。入学前の学生に何を学んでもいいか、どうなってほしいか、限られた時間と労力のなかで、学校としてどのようにかわることができるのか。これらには明確な正解やルールがなく、学校それぞれで考えるしかありません。しかしこの試行錯誤こそ、理想的な学生像、理想的な教育像を考えることにつながるはず。すでに取り組んでいる先生も、これから取り組もうという先生も、今特集が入学前学習、そして教育そのものを考えるきっかけとなれば幸いです。

- 看護学生における入学前準備とは何か……………広瀬京子
- 郵送でのやり取りを通して未来の学生たちに向き合う……………金子秀子
- 専門職を目指すために国語力という土台を鍛える……………高木真
- 生活習慣の見直しを含めた「推薦入学プログラム」……………林洋子
- 専門基礎科目への橋渡しを考える……………河野恵子
- 教育改善のための入学前教育——非看護系大学の状況から……………江本理恵



【2014年11月号(Vol.55 No.11)】

基礎と臨床がともに学ぶ場をつくる

自治体が協力するケースを中心に

【2014年8月号(Vol.55 No.8)】

**学習の「質」を高める
パフォーマンス評価**

【2014年10月号(Vol.55 No.10)】

論文執筆のススメ

実例から学ぶ良い論文の書き方

【2014年7月号(Vol.55 No.7)】

**精神看護教育に
改めて向き合う**

【2014年9月号(Vol.55 No.9)】

**求める学生確保のための方策
面接をめぐる課題を中心に**

【2014年6月号(Vol.55 No.6)】

**学生から看護師へのホップ！
ステップ！を支える教育**

バックナンバーのご注文・在庫照会について

- 2012年12月号(Vol. 53, No.12)以前の号は、東亜ブック(TEL.03-3985-4701, FAX 03-3985-4703, <http://www.toabook.com/>)
- 2013年1月号(Vol. 54, No. 1)以降の号は、医学書院販売部(TEL.03-3817-5659)にお願いします。